

目指す学校像（ミッション）		深い理解を伴う知識学習を基本とした、心豊かな創造力・発信力をもった国際社会に貢献できるリーダーの育成						
本年度の重点目標		<ol style="list-style-type: none"> 1. 基礎的・基本的な内容の十分な理解を基盤とした探究的な学びを深め、多様性や関係性を重視する協働的な学びを目指す 2. 発達段階に応じた学習集団で学び合い、学びの質の向上を図るとともに主体的で深い学びを実現する 3. 一人一人の問いをより広く深く展開できるテーマや題材を設定し異学年活動の質を高める 4. ICTを活用して教育活動を充実させるとともに、保護者の求める情報をタイムリーにわかりやすく発信する 						
学 校 自 己 評 価								学校関係者評価(令和5年5月) (保護者代表5名・学校代表3名)
評価項目	年 度 当 初		中間評価（10月）		最 終 評 価（3月）			意見・要望・評価等
	現状と課題	具体的な方策	経過・進捗状況	経過・達成状況等	達成度	次年度の課題		
1 よりよい授業を目指す授業開発の取組み 授業改善	<p>【P】 基礎的・基本的内容の定着度には、教科によってすでに大きな個人差が見られる。授業で学んだ内容の習熟・深化を、個に応じた家庭学習で補完していくことが必要である。</p> <p>【S】 知識・技能の獲得が主眼となっており、児童・生徒の学習意欲や学び合いなど、主体的な学びにつながらないことが見受けられる。</p>	<p>【P】 基礎・基本的な知識技能の定着は、毎日の昼の学習や家庭学習を有効に活用すると共に、授業では互いにアウトプットし合う協働学習を積極的に取り入れる。</p> <p>【S】 復習による知識・技能の定着は家庭での繰り返し型学習を活用し、授業ではペア・グループワークでの主体的・対話的な学びを取り入れる。</p>	<p>【P】 アプリを活用した家庭学習や、小テスト、単元テストの実施により、基礎基本の定着に努めているが、引き続き基礎学力の底上げは課題である。</p> <p>【S】 各教科で家庭学習を習慣化し、それを踏まえて授業を進めていこうとする授業が多く見られる。発展的な学び、協働型の学習を心がけている授業も少なからず見られるようになったが、まだまだ取り入れていく余地はある。</p>	<p>【P】 アプリを活用した家庭学習や協働的な学びを取り入れ各教科工夫しながら基礎基本の定着に努めた。</p> <p>【S】 ICT 機器などのデバイスも活用しながら家庭での繰り返し学習につなげていた教科も見られた。発展的な学び、協働型の授業の推進に努めた。</p>	<p>【P】 B</p> <p>【S】 B</p>	<p>【P】 基礎的・基本的な内容の定着度の個人差が依然として顕現化している。引き続き学力の底上げにかかる方策を講じていく必要がある。</p> <p>【S】 ICT の活用が図られ、授業改善に努めてきたが、児童生徒の自発的な学びに結び付いていない。発展的な学び、協働型の授業をより推進し児童生徒の学習モチベーションを高めていく必要がある。</p>		<p>・協働学習により、児童生徒の課題解決までの思考力が更に育つことを期待している。</p> <p>・児童生徒が各家庭で学習に取り組むことも大切である。より一層学習意欲が高まるよう、個々に応じた指導を引き続きお願いしたい。</p> <p>・基礎学力の定着度は個人差が多少あるので、今後も ICT 機器のアプリ等を活用して取り組ませるとよいと思う。</p>
2 学年を軸に児童・生徒が主体的に活動する学校生活・学校行事の実現 主体的な活動	<p>【P】 学年の探究テーマが自分ごとになるよう協働的な学びの中で、実現できている。更に一人一人の問いを深めさせたい。</p> <p>【S】 プロジェクト型テーマ学習においても、基礎的・基本的な内容理解が基盤となる。そのあたりのバランスを考えた取り組みを工夫したい。</p>	<p>【P】 発達段階に応じて児童自らがテーマ設定し、問を深められるように興味・関心を引き出す授業づくりを目指す。</p> <p>【S】 毎年積み重ねてきた経験を基に課題を設定し、それに向かう自立的活動を促し支援する態勢を再構築する。</p>	<p>【P】 計画的に探究テーマを設定し、体験を通して、仮説・検証・発表というサイクルで主体的・協働的な学習活動をデザインすることができている。</p> <p>【S】 学年の時間、探究の時間が例年より取れていない現状の中、各学年で iPad などのツールも積極的に活用し、11月の探究中間発表に向かっている。</p>	<p>【P】 活動への目的意識や見通しが明確であることで主体的・協働的な探究活動が深められた。</p> <p>【S】 今年度は FW が全学年実施できた。直接見て感じる実地での探究活動は最後の発表も含め、より深まりを見せたものとなった。</p>	<p>【P】 A</p> <p>【S】 A</p>	<p>【P】 探究テーマ設定までのプロセスを大切にするとともに、探究学習を進めるために必要な知識・技能の習得も並行して行い、より深い探究学習を実現していく。</p> <p>【S】 教科学習における探究的な学びを充実するとともに、より主体的、能動的な探究学習となるよう努めたい。</p>		<p>・探究を進めていく過程で、児童生徒一人一人が楽しく学び成長できるよう、先生方に関わっていただいたと感じられる。一方で、自分が興味のない分野でも意欲的に学べるように、子供たちの関心を引き出すように働きかけてほしい。</p>
3 異学年齢のよさを活かした Team の運営 Team の充実	<p>【P】 協働的な学びの場としてよい体験をしている。探究の取り組みを軸に Team 集団の個性を表出させたい。</p> <p>【S】 Team の成員としての自覚と主体性に課題が見える児童生徒が目立つ傾向にある。そのあたりの温度差をどのように埋めるかが課題である。</p>	<p>【P】 異学年での協働探究を軸に低学年にも粘り強く取り組ませると共に色々な視点を持ち関心を広げる活動を通して Team 集団を育てる。</p> <p>【S】 学年活動を通して学齢に応じた役割を理解させるとともに、Team への個性を活かした貢献の仕方を考えさせて主体的な行動を促す。</p>	<p>【P】 今年度より「Team 探究」を時間割の中に設定し、異学年齢の良さを活かしながら協働学習を行うことで、Team 集団を育てている。</p> <p>【S】 球技大会や運動会などの大きな行事や日常の Team の生活を通して上級生が下級生に対する面倒見の良さは随所に見られた。今後は下級生の役割もより発揮できると良い。</p>	<p>【P】 計画的に異学年齢で探究を取り組むことで児童個々の成長が著しく、役割を理解し動くことができる Team 集団となった。</p> <p>【S】 運動会、表現活動等を通して Team の上級生が下級生をよく支えた。全学年参加の 8 年生終了式は、在校生たちによる手作りの式典となり大きな成功を収めた。</p>	<p>【P】 A</p> <p>【S】 A</p>	<p>【P】 協働的な学びの場として、良い体験ができています。Team での探究活動については、より Team カラー、個性を生かした活動にしていきたい。</p> <p>【S】 リーダーたる 8 年生がチームをよく導いており、Team カラーがよいかたちで諸活動に反映している。次年度は、Team の時間をより担保し充実させたい。</p>		<p>・学年が1つ上がるごとに、子供の成長を感じる。本人も Team の中での自分の役割を意識しているのだと思う。また探究や行事における活動では、先輩の姿から多くを学び、後輩を導く姿勢を自然に身に付けられている。これは異学年学級ならではの得難い環境だと思う。</p>
4 教育環境の充実と保護者や入学希望者への情報の充実 教育活動の充実	<p>【PS】 ICT の活用場面を開発すると同時に、活用の効果検証を並行して行う必要がある。今年度は低学年にも一人一台の端末が整備される。リテラシーとともに、授業での活用についてより一層の工夫が必要である。</p>	<p>【PS】 デジタル教材を含む ICT の活用を研究し、実践後に効果検証を行う。また、保護者との双方向の情報共有方法の定着を図ると共に、HP を通して多面的な教育活動を紹介する動画コンテンツを定期的に発信する。</p>	<p>【PS】 1・2年生にも iPad が支給され、探究発表の ICT 化など、より一層の ICT 活用が実現できた。保護者への情報発信についても、各種ツールを活用し、効果的に行えるようになってきている。セカンダリーでは、単語学習アプリ「モノグサ」を全学年導入し、朝の学習にも活用することで、一定の成果が出始めている。</p>	<p>【PS】 全教室がホワイトボード化となり特別教室にもプロジェクターが常設され、授業で効果的に活用した。保護者との双方向での情報共有については利用方法の簡便化が図れた。今後もより一層の情報発信の整備に努める。</p>	<p>【PS】 A</p>	<p>【PS】 ICT 環境が一定程度整備され、教室環境も ICT 対応可能となった。今後は、児童生徒の家庭学習、自発的学習について保護者との連携を図った取り組みとなるようにしたい。一方で、体験的な学習、ものづくりなど、アナログ学習の環境もなお一層整えていきたい。</p>		<p>・ICT 環境が更に整備され、児童生徒はスムーズに活用できている。保護者への情報共有についても、日々検証されていると感じる。今後も児童生徒の学習等について家庭との更なる連携を期待したい。</p> <p>・HP の記事、写真、動画等も多く細やかな説明で情報発信され充実している。</p>

◆ 達成度 A：ほぼ達成（8割以上） B：概ね達成（6割以上） C：変化の兆し（4割以上） D：不十分（4割未満）

◆ 【P】とは：プライマリー課程（小学校1年生～4年生） 【S】とは：セカンダリー課程（小学校5年生～中学校2年生）